

## 「働き続けられる職場をつくる」のキャッチフレーズ募集!

私たちの「看護師ふやせ」の請願が国会採択され、確実に成果とするため、いよいよこの夏から運動が本格化します。

国に改善をせまるとともに、職場で確実な成果に結び付けていくために、看護闘争委員会では「働き続けられる職場こそ、安全でよい看護！」のキャンペーンを張ろうということになりました。いまや「働き続けられる職場づくり」「離職防止」は、私たち労働組合だけでなく、経営者、日本看護協会、政府も含めて医療関係団体の誰も反対のできない合意となっています。

みんなの心を1つに束ね、運動をさらに大きく広げるために、キャッチフレーズを作ることになりました。看護職の創意と総意ですてきなフレーズをつくりたいと思います。組合員の看護職に呼びかけてください。なお、すべての県で実施された5月のナースウェーブの横断幕のフレーズを集めてみました。参考にしてください。9月の交流集会で発表し、活用していきたいと思っています。

- 職場はもう限界! 安全と安心のために看護師を増やしてください
- 医師・看護師の大幅増員で安全・安心の医療・看護を実現しよう
- 医師・看護師ふやして安全・安心の医療・看護をつくろう
- 安全・安心の医療看護のために大幅増員を!
- ゆきとどいた看護のために大幅増員を!
- ゆきとどいた看護のために看護師をふやして!
- 手のぬくもりが伝わる看護を
- 私たちの願いは 安全でゆきとどいた看護の実現です
- 看護師をふやしてください いつも笑顔であたたかい看護がしたい
- 私たちはめざします 安全安心の医療・看護を

- 私たちはめざします 安全安心の医療・看護を
- 看護師ふやせ 夜勤をへらせ
- 笑顔で看護がしたい
- もう限界! 看護師をふやして
- 看護師をふやして 安全でゆきとどいた看護のために
- めざそう 安全・安心の医療看護
- 安全安心の医療・看護に必要な看護師が不足しています
- いのちを守る手が足りない! もっとナースをふやして!
- いつも天使じゃいられない
- わたしたちは千手観音

キャッチフレーズは、〈メール〉 [n-oomura@irouren.or.jp](mailto:n-oomura@irouren.or.jp) または、〈fax〉 大村・井上・大谷まで

### 国立病院機構福岡病院における医療事故での 看護師2名の不起訴を求める署名の推進について

国立病院機構福岡病院において、昨年4月におきた医療事故について、気管内チューブを誤挿入したとして、看護師2名が書類送検されました。

全医労は、福岡県医労連、福岡県労連、福岡県国公などと、「看護師を守る会（準備会）」を立ち上げ、福岡地方検察庁宛の不起訴を求める署名にとりくむとともに、事故原因を明らかにさせ再発防止策を講じることを求めて運動をすすめています。

昨年4月20日、国立病院機構福岡病院において間質性肺炎で入院中の77歳の男性患者さんが、シーツ交換時に容態が急変し亡くなるという事故が発生。患者さんは人工呼吸器を装着しており、胸部写真で、気管内チューブが食道に誤挿入されていたことが判明しました。

この件で、福岡県警南警察署は看護師が気管内チューブを誤って食道に挿入したと断定し書類送検（検察送致）を行いました。

組合が行った当該看護師の聴き取り調査・検証では、看護師は、ずれたチューブホルダーを戻そうとはしましたが、気管内チューブを挿入する行為はしていません。そして、直ぐに医師を呼び、医師とともに救命措置を行い、マニュアルに沿った適切な行動をとっています。医療事故は組織事故であり、今回の事故についても入院当初からの経過に沿って多角的に詳しく調査されるべきです。組合は事故当初から第三者を入れた事故調査委員会を行うよう施設に要求していますが一度も行われていません。そのような状況で看護師の責任だと断定し、「個人責任」としてこの事件を終わらせることは、事件の真相解明、事故の再発防止の妨げとなります。看護師2人が業務上過失致死容疑で書類送検（検察送致）されたことは事実誤認であり不当です。

「国立病院機構福岡病院の医療事故原因を明らかにし2人の看護師を守る会」準備会  
(略称・看護師を守る会)

連絡先: 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前4丁目6番7号

全日本国立医療労働組合福岡地区協議会内「看護師を守る会」

TEL092-471-0826 FAX092-411-5486



### 和歌山県医労連

**抗がん剤ミキシングは薬剤師で（日赤）、  
准看護師初任給 5000 円アップ（潮岬）、  
救急外来の土・日・祝日を2交替に（新宮）、  
「7対1」めざして夜勤体制の改善（民医労）の回答**

夏期一時金闘争の中で、民医労は、看護職員確保について、当局は来春に「7対1」取得をめざすとし、夜勤体制の増員も検討すると回答、外来に常勤看護師1名の増員を約束。今後、看護師確保対策の担当者を専属で配置することも明らかにしました。

日赤労組は、かねてより要求していた抗ガン剤のミキシングを薬剤師が行うことについて、当局は「抗ガン剤の調合はすべて薬剤師がすべきと考えている。その目標にむかって取り組む。」と回答。

潮岬病院労組は、若い職員の離職を防ぐために、准看護師初任給を5,000円引き上げると回答。組合が若い職員が希望を持ち続けられる職場にしようと活動してきたのが成果になりました。

新宮市立医療センターでは、救急対応の外来看護師の当直勤務の改善に向けて交渉を重ねており、7月より、土・日・祝日についてまず、2交替勤務を実施することになりました。